

平成 29 年度 秩父地域森林活用等創出支援事業 活動状況報告書

## 花の長瀬の豊かな森を活用した、森林養蜂による 「第3のみつ」新商品開発及び増産技術の研究事業 (H27、28)

### 第3のみつ研究会

#### 事業の目的・内容

県立秩父農工科学高校と引き続き研究を行っており、秩父の森林からの豊かな蜜源を利用して、長瀬町を拠点に大滝方面まで移動しながら、様々な果汁と自然の蜜を融合させた新しいみつの試作品ができています。その恵みを多くの方々に届けることができます。

長瀬町、大滝地区の蜂場には天敵の鹿、猪、熊が出没しているにもかかわらず獣害ネットがしっかり設置されておらず、蜂場の環境が安全に保たれていません。獣害ネットの設置により、より安定的に「第3のみつ」が製造できるようにしたいと思います。

ネットの整備を経て、地域特産品作り推進事業として「第3のみつ」の新商品開発を行っています。平成27年度の成果を生かして、平成28年度は、ニンジン、バナナ、トマト果汁による蜜の製造と、リンゴ果汁を使った量産化に取り組みました。

#### 今までの活動状況

##### <平成27、28年度事業> 第3のみつ製造のための獣害ネット設置事業

長瀬地区も農作物のイノシシ、シカによる獣害は毎年発生しています。イノシシの侵入により1本のアルミ製支柱が折られました。



獣害ネット設置のお陰で侵入を電柵で防ぐことができ、蜂群には影響がありませんでした。しかし、毎日のように周囲をイノシシがミミズ掘りをしていますので油断はできません。



平成 28 年 8 月、秩父農工科学高校の生徒たちが作ったトマトジュースの「第 3 のみつ」を長瀬蜂場で完熟状況を生徒たちと確認しました。作った蜜を埼玉大学の科学分析支援センター藤原先生により分析の指導を受けました。



11 月は秩父ミュージックパークにあるメープルベース秋のフェスティバルにて、新作第 3 のみつ、ニンジン、バナナ、トマトの試作品を試食して頂きました。



## これからの活動・行事

ハチミツを作る条件は蜂群と蜜源がともに豊かである必要があります。平成 29 年度は、蜂群を増やす事を先行して、蜂箱の製造を秩父の木で製作し、その中に蜂群を増やしていく計画を進めています。蜜源の充実については NPO 法人秩父百年の森に大変期待しています。